

まなびと+ Plus

vol.9

Webマガジン「まなびと」にて
大原龍一先生の新連載
「**学び!と道徳**」スタート!



本資料は、「教科書宣伝行動基準」に則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

日文

検索

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

大原龍一先生の 道徳教育で素敵な人生を創ろうよ

日本文教出版のWebサイト内で連載中の「まなびと」にて、小学校では2018年度から、中学校では2019年度から全面实施される「特別の教科 道徳」(道徳科)についての最新情報をお届けする新コラム『**学び!と道徳**』の連載が始まります。「道徳教育で素敵な人生を創ろうよ」をテーマに、明星大学准教授・青山学院大学兼任講師の大原龍一先生(写真)が執筆を担当。今回は連載第1回目の記事を、お手元にお届けします。



第1回 「語る!」道徳教育の基本はここにあり

1 はじめに

はじめまして。このたび、「学び!と道徳」を担当させていただくことになりました大原龍一です。

道徳の教科化(特別の、新しい枠組みによる)が教育界における大きな話題の一つになっている昨今、現場の皆様にも少しでもお役に立てるような記事や情報を提供し、道徳教育の振興にいくばくか寄与したいと思っています。

頑張ります。よろしくお願いたします。

2 道徳教育の基本は「語る」

さて、いきなり道徳の教科化云々から始めるのも気分的に「重い」ので、普段私が考えていることをいくつか紹介させていただこうかと思います。

今回は「語る」をテーマにしたいと思います。道徳教育を貫く基本的なスタンスとして、私は「語る」ことを位置づけているからです。もちろん、週一時間の道徳の時間の指導においても「語る」ことを重視しています。

(1) 「語る」ということ

「語」という漢字を二つに分けてみました。「吾(われ:自分)」+「言(う)」となります(実は、これは道徳の大先輩から教わったことです)。ですから、自分が自らを心から話すこと。これが話すこと。これが語るということになります。これは、「(1)自分のことを言う➡語る」でもありますが、「(2)自分のこととして、自分のものとして(自己の内面できちんと咀嚼して)言う➡語る」ことももちろん、「(3)相手に分かりやすく自分の主張や考えを話す➡語る」でもあるわけです。まさに道徳の基礎・基本ではないでしょうか。

広辞苑を引いてみますと、「①事柄や考えを言葉で順

序立てて相手に伝える。②筋のある一連の話をする。③節や抑揚をつけてよむ。朗読するように述べる。④親しくする。うちとけて付き合う。⑤内部事情や意味などをおのずから示す。」とあります。よく見てみると、上記「(1)(2)(3)」と同様、これらも道徳教育ならびに道徳の授業を行う上での基本姿勢であると私は考えます。

(2) 教師は、まず自分を「語る」

道徳教育を効果的に推進していく上で最も留意しなければならないことは、教師と子どもとの豊かな人間関係を醸成することだと考えます。小学校学習指導要領解説「道徳編」においても、教師と児童・生徒との人間関係を深めることの必要性・重要性が以下説かれています。

教師と児童の人間関係においては、教師に対する児童の尊敬と、児童に対する教師の教育的愛情、そして相互の信頼が基本になる。したがって、教師には児童を尊重し受容する態度及び児童の成長を願う教育的愛情が不可欠である。また、教師自身がよりよく生きようとする姿勢をもつことによって、自己を常に向上させようとしている児童の強い共感を呼び、それが信頼関係の強化につながる。これらのためにも、教師と児童が共に語り合うことのできる場を日常から設定し、児童を理解する有効な機会となるようにしていくことが大切である。

(小学校学習指導要領解説「道徳P.113」下線部:大原)

そのため、私は自分を子ども(今は、学生)に語るようにしています。自分について語り、自らの胸襟を開き「どうぞいらっしやい」と迎え入れる姿勢が子どもたちの共感を呼ぶと考えています。しかし、どうしても自分をさらけ出すことにもなり恥ずかしい限りではありますが「私はこうやって生きてきた」ということを語っています。そうすると、子どもたちも徐々に断片的ではありますが自分のことを話すようになってきます。このことは、小学生のみならず大人である大学生にも通じること

です。大学の授業を開始するに当たって、最初にオリエンテーションとして自己紹介がてら「私」について語ります。豊かな人間関係の醸成とは実はこのような積み重ねによってつくられてくるのだと思っています。

大学での自己紹介の内容は、●私の生い立ち、●私の学校生活（小中高等学校）、●大学生活と教員志望、●教師になってから、●管理職になってから、●私と家族、●趣味や特技。これらをP・Pでかつての写真等を提示しながら語ります。学生は興味をもって聞いてくれます。実はこのP・P画面は、校長の時に6年生の総合的な学習の時間に「将来の自分について」という学習で6年生に話した（語った）時の資料が基本となっています。子どもたちも興味をもってよく聞いてくれていました。

（3）道徳の時間では、子どもが自分を「語る」

道徳の時間においては「資料・教材」が大きな割合を占めます。資料のない道徳の時間の指導はあり得ません。そこでは、「資料を勉強する」のではなく、「資料で【人としての生き方】を勉強する」のです。主人公に投影して自分を語らせるのです。知っていることや聞いたこと、見たことをそのまま話すのではなく、それらをもとに自分の生き方について語り合う時間が道徳の時間なのです。そして、その中から「よりよい生き方」を自ら探し出すことが学習のねらいとなるのです。教師は、子どもたちが「自らの生き方の軸を見つける」お手伝いをする事となります。

「知識」「見識」という言葉があります。知識とは字のごとく知っていることです。知っていることに基づいて自分なりの考えや思い、見解を持つことが大切です。そうでなければ単なる「物知り」にすぎません。知識→見識に引き上げるところに人間的な成長がみられるのではないのでしょうか。道徳の時間もそんな時間にしたいものです。子どもたちや先生が互いに語り合っ、高め合う時間に。

もう一步、肝が据わった「たんしき胆識」もほしいところですが。

（4）資料・教材は教師が「語る」

道徳の時間は「資料（教材）提示で決まる」と言われ

ます。質の高い資料を用意することはもちろんですが、その資料をどのようにして子どもたちに提示するかが道徳の授業においては非常に重要な要素となってきます。

私自身恥ずかしい限りではありませんが本当にこのことを実感として理解したのは、50も半ばを過ぎた頃でした。耳にはしていましたが、実際の授業（校長になってからも自校を中心として授業実践をしていました）を通してその意味するところを自らのものとして実感し、理解しました。子どもたちの反応が明らかに異なるのですから。そして、資料提示後の授業展開も今までとは比べものにならないほど質の高いものになります。若い教員が道徳の授業で苦労していました。徹底して資料提示を練習させました。結果、授業が見違えるほどステキになりました。単に話合いのテキストを読むのではないのです。

私は「資料を読む」のではなく「語る」と言っています。学習指導案にもそのように記すようにしています。資料（教材）を何回も何回も読み、自分のハートに落とし込み、自らの心の言葉として子どもたちに語ることによりその心が子ども一人一人に伝わっていくのではないのでしょうか。そして、「聞」と「余韻」を大切にしながら「節や抑揚をつけてよむ。朗読するように（広辞苑）」語ることです。まるで1つの作品のように子どもたちの心にプレゼントしたいものです。心の玉手箱として。



3 次回にむけて

今回は、もう少し「資料・教材を語る」についてこだわってみたいと思います。もう一つは、アクティブ・ラーニングです。しばらくは道徳授業の進め方になるでしょうか。

また、よろしくお願いいたします。

Profile



大原 龍一 先生 明星大学准教授 青山学院大学兼任講師

横浜国立大学教育学部（社会科・哲学倫理専攻）卒業。東京都教員、教頭、校長を経て現職。東京都小学校道徳教育研究会の役員、全国小学校道徳教育研究会の会長等を務め、都や全国の道徳教育の充実・発展に携わる。平成24年度、町田市立町田第四小学校において全国小学校道徳教育研究大会を実施する（全小道研会長、当該校校長）。ライフワークは道徳性の評価に関わる研究。主にピアジェ、コールバーグ、アイゼンバーグを取り上げる。

道徳と日文

これまで、これからも

昭和33年、「道徳の時間」が特設されて以来、
私たちは小学校、中学校の副読本をはじめ
数々の教材を発行してまいりました。
「特別の教科 道徳」のスタートにあたり、
よりよい道徳教育を推進するために
これからも歩み続けます。

一部改正学習指導要領「特別の教科 道徳」移行措置対応 副読本



小学校道徳
新 生きる力
1～6年

平成28年度
新刊



中学校道徳
新 あすを生きる
1～3年

平成28年度
新刊

Webマガジン「まなびと」 “学び!と道徳” 9月～連載開始!

まなびと 子どもを想う 大人たちへ贈る Webマガジン	<p>学び!と美術</p> <p>図画工作科・美術科が 今できること</p> <p>■ 藤村高明 (あぐら たかあき)</p>
<p>学び!と道徳</p> <p>道徳教育で 素敵な人生を創ろうよ</p> <p>■ 大原 龍一 (おほはら りゅういち)</p>	<p>学び!と歴史</p> <p>読み解く 歴史の世界</p> <p>■ 大原 龍一 (おほはら りゅういち)</p>
<p>学び!とシネマ</p> <p>一緒にシネマタイム。 子ども、大人も。</p> <p>■ 二井 康雄 (ふたにい やすお)</p>	

学び!と道徳

道徳教育で
素敵な人生を創ろうよ
執筆: 大原 龍一 先生

日文Webサイト内で連載中の「まなびと」にて、9月より新しく大原龍一先生の新連載「学び!と道徳」がスタートします。
連載中の「学び!と美術」「学び!と歴史」「学び!とシネマ」に加え、道徳の分野からも、子どもを想う大人たちへ毎月コラムをお届けします。

■「まなびと」はこちらから!

<http://www.nichibun-g.co.jp/column/manabito/>

日文TOP ▶ 日文の教育読み物 ▶ まなびと ▶ 学び!と道徳



撮影(児童写真): Kazue Kawase(YUKAI)

まなびと+Plus vol.9

日文 教授用資料

平成28年(2016年)10月17日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33323

日本文教出版 株式会社

<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690